# 失楽

與謝野寛

青空文庫

わが上に一切の事物を示す「失楽」よ、
過ぎゆく日の最後なる今日の「失楽」よ、
わが身の上の「失楽」よ、我は汝に叫ぶ、
「全く空し」と。
我は幽欝なる汝の栖所に圧込められ、
我は其処に、粛索と飢渇との苦を続く。
何物も好からず、何物も最後まで期待せし所に値せず。
かくて、我は、今、汝の抱緊の下に死なんとす、
悔も無く、望も無く、怖るる所も無く。

無し、無し、一の叫びも無し、一の戦慄も無し。
最後の頼みとせしわが「愛」さへ喘げる負傷者なり。
他の、最後のわが神は青白き其額を包む、
そは「夜」なり、陰森として眠を誘ふ「夜」なり。
かくて、我は夢に落ちゆく。「生」とは何たるみすぼらしき語ぞ。
寥廓の不動なる路彼れを塞ぎ、
暗き地牢の底に其力を涸しながら、
昏睡せる人の無感覚こそやがて其「生」なれ。

ああ、自信と、期待と、愛とは、
轡りつつ、幸福を砕き去る荒砥ならず。
生くる欲、物の欲、恐怖、
少くも、気永に地を貪り食ふ植物の如き、
勇猛に堅実なる生活。

然れども、無し、無し、「虚無」が其欝憂をさまよはす、
荒廃したる大歩廊の外、何物も無し。
かくて此失楽の中に猶蠕動く……大馬鹿者よ。

○

貴なる女君よ、なつかしき身振もて、
開けたまへ、いとも輝かしき台の新しき帷を。
そは、かずかずの薔薇の打顫ふいみじき花の姿を
いと疾く我等に観せしめ給ふため。
また許したまへ、此処にあるそこばくの歌を、
節会の日に喜び狂ふ学生等の如く、
君があたりに捧ぐることを。
さて、如何に、気上りたる動音の
君が秀れし詩才を称ふることよ。
君は常にときめく韻をもて歎きながら
わななく熱き胸を語り給ふとこそ覚ゆれ
さて、また、楯形の菫の花なる君が目は
常に涙さしぐみつついますならめ。

○

来りぬ、わがかひなの中に。さて共に身を忘れぬ。
開けかし、美くしき歯に満ちし君が口を。
わが舌は穿ち入る。
さながら君が心を舐るここちに。

# 青空文庫情報

底本：「太陽」博文堂
　　1913（大正2）年6月号
※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の旧字を新字にをあらためました。
※底本の総ルビを、パラルビにあらためました。
※底本の署名には、「よさの　ひろし」とあります。
入力：武田秀男
校正：門田裕志
2003年1月24日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 失楽

與謝野寛

2026年10月1日　第二版

## 奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/